

自己評価

「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き」(環境省)に則り自己評価を行っております。

本環境報告書の記載事項は、当機構における環境配慮活動を適切に実施するために設置されている環境委員会(委員長:理事)に諮り、重要な情報の網羅性、信憑性、妥当性について審議しました。その結果、記載すべき項目のうち、必要な情報は網羅されていることを確認しました。

さらに、地球環境問題の解決に貢献する当機構の主要なプロジェクトであるエネルギーの安定供給を目指した大型プロジェクト研究開発、科学技術の革新を目指した量子ビームテクノロジー、原子力開発に特徴的な原子力の安全確保や放射性廃棄物管理等、原子力機構独自の活動について紹介しております。

環境配慮に対する取組を機構一丸となって実施しており、今後の環境保全活動をより良いものにするため、このような取組をさらに充実させるとともに継続し努力してまいります。

自己評価表(「環境報告書2010」に対する評価)

記載すべき項目 (「環境報告書の記載事項等に関する告示」に対応したチェックシート(評価表)による)	記載ページ	記載のない理由
環境配慮の方針等		
・経営責任者の緒言	3, 4	—
・事業活動における環境配慮の方針	4	—
主要な事業内容、環境配慮の取組状況等		
・報告に当たっての基本的要件	1	—
・事業の概況	5-8, 13-20	—
・環境マネジメントシステムの状況	21, 22	—
・総エネルギー投入量及びその低減対策	25	—
・物質投入量及びその低減対策	27, 28	—
・水資源投入量及びその低減対策	30	—
・事業エリア内の循環的利用を行っている物質等	—	該当なし
・総製品生産量又は総商品販売量	—	生産業等に適用
・温室効果ガスの排出量及びその低減対策	26	—
・大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	29-32, 39	—
・化学物質排出量・移動量及びその低減対策	33	—
・廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	35, 36	—
・総排水量及びその低減対策	30	—
・グリーン購入・調達状況	28	—
・環境に配慮した輸送に関する状況	26	—
・環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	—	生産業等に適用
・環境に関する規制遵守の状況	26, 29-32 37-39	—
・環境コミュニケーションの状況	43, 44	—
事業者の創意工夫により充実が望まれる項目		
・環境報告の概要	1, 2, 23, 24, 47-50	—
・事業活動のマテリアルバランス	23, 24	—
・環境会計情報	—	環境会計について調査中であり、導入に至っていない
・環境に配慮した投融資の状況	—	投融資を行わない
・環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況	22	—
・環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	13-20	—
・生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	40	—
・環境に関する社会貢献活動の状況	44	—
・環境配慮と経営との関連状況	21-22	—
・社会的取組の状況	41-45	—